早期水稲における白未熟粒の発生とその品種間差

自然条件下で登熟したコシヒカリの玄米

高温少照条件下で発生したコシヒカリの白未熟粒

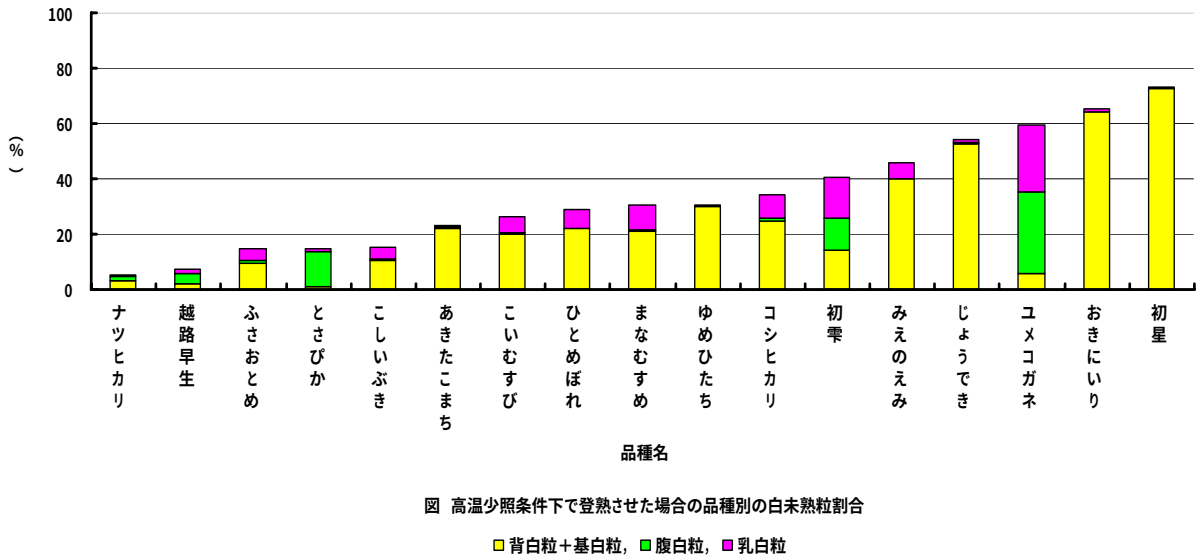

図　高温少照条件下で登熟させた場合の品種別の白未熟粒割合

近年、水稲早期栽培では、登熟期の高温や日照不足によって白未熟粒（写真参照）が発生し、玄米の品質低下が問題となっていますが、白未熟粒の発生には品種間で差のあることが報告されています。そこで、本県で栽培されている主要品種を含む国内の 17 品種について、高温少照条件下の強化プラスチックハウス内で登熟させ、白未熟粒の発生割合を調査しました。

白未熟粒の発生が少なかった品種は‘ナツヒカリ’、‘越路早生’等で、また、白未熟粒の発生が多かった品種は‘初星’、‘おきにいり’、‘ユメコガネ’等でした。

今後は、温度や日照条件を違えて登熟させることで、白未熟粒の発生機構を明らかにするとともに、高温登熟性を評価するための基準品種の選定を急ぎたいと思っています。

(水田作物科　高田　聖 088-863-4916)